

# 九州の成長戦略と 商社への期待

九州経済国際化推進機構 会長  
社団法人九州経済連合会 会長

まつ お しんご  
松尾 新吾



## 1. はじめに

日本の西南部に位置する九州は、その地理的位置により、古来「アジアの玄関口」として栄えてきた歴史がある。

21世紀を迎えた今、九州は「アジア交流のフロントランナー」として、アジア諸国との連携を強化することにより、経済成長の著しいアジア諸国のエネルギーを取り込んで、経済や文化を活性化させることが不可欠である。

今回、私は主に「九州の国際化」という観点から、九州の成長戦略と商社への期待について述べてみたいと思う。

## 2. 九州の成長戦略

### (1)九州全体が一体となった国際化 〔九州はひとつ〕

私は、「九州はひとつ」の理念の下、九州全体が一体となった国際化が何よりも重要であると考えている。

九州は、GDP43兆円、域内人口1,300万人という規模を誇っている。九州の実質的な競合相手であるアジア諸国の大都市圏と伍して発展するためには、このベルギー一国に匹敵する規模の活用が必須であり、九州全体が一体となって国際化し、アジアの拠点として繁栄するのが理想的である。

図1 アジアの主要都市と九州

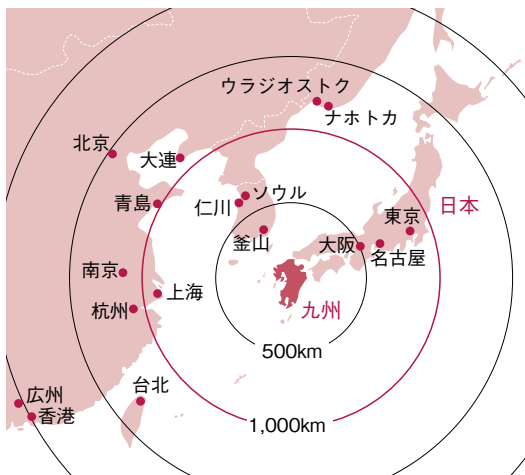
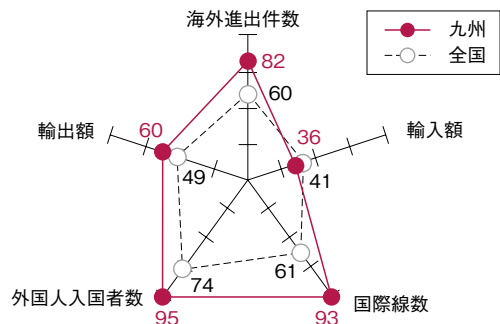
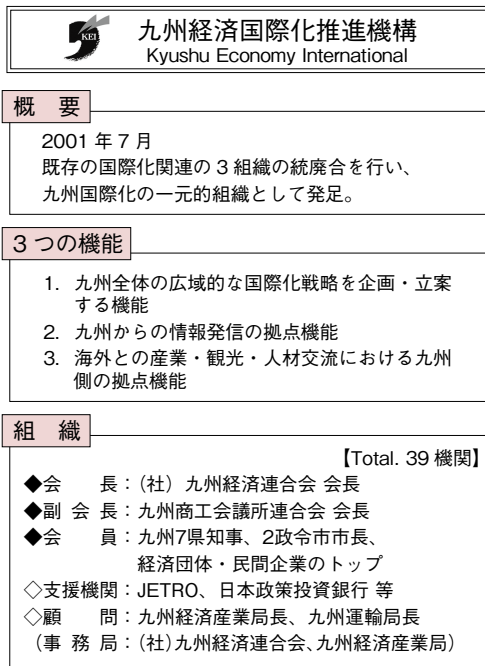


図2 九州のアジア度








(注) 経済活動に占めるアジアの割合  
(出所) 九州経済産業局「アジア国際化レポート2009」

図3 オール九州での国際化推進体制

**機構の事業**

## ●産業交流

## 九州発の地域間交流の枠組み

- ▶ 中国政府（商務部、科学技術部）    
 韓国政府（知識経済部）との定期協議・国際フォーラム
  - －九州・中国産業技術協議会（1991年以降13回）
  - －九州・韓国経済交流会議（1993年以降16回）
  - －環黄海経済・技術交流会議（2001年以降9回）
- ▶ ベトナム政府（計画投資省）と経済交流MOU締結（2009年） 

## ●地場企業の海外展開・販路拡大支援

- ▶ 海外見本市への共同出展
- ▶ 食品の輸出相談会、海外ビジネスセミナー

## ●産業立地

## ●外国企業誘致支援

- ▶ 企業誘致担当者向け研修セミナー

## ●人材交流

## アジアビジネス人材の育成

- ▶ 地場企業への留学生就職マッチング事業

## ●情報発信

## 九州地域のプレゼンス拡大

- ▶ ホームページ等による九州の投資環境 PR

## 【九州経済国際化推進機構】

地場企業の海外展開や輸出拡大への支援、外国企業誘致、留学生活用などの国際事業は、実施する各機関が連携・協力を深めることでシナジーが高まることが期待される。このため、2001年7月に九州国際化の一元的組織として設置された「九州経済国際化推進機構」（九州の7県2政令市および経済団体や民間企業等39機関から構成）を中心に、自治体や各機関等と連携して国際化を推進していきたい。

## 【九州地域戦略会議】

2003年、九州地方知事会と経済4団体で構成する「九州地域戦略会議」を設置した。同会議では、アジア大での地域間競争に生き残るため、九州一体観光、社会資本整備の推進、道州制の検討、地球温暖化対策の検討、2010年上海万博への出展など、九州の一体的発展

に向けた諸施策を、官民一体で推進している。

## (2)九州発のアジア地域間連携の取り組み

## ①環黄海経済・技術交流会議

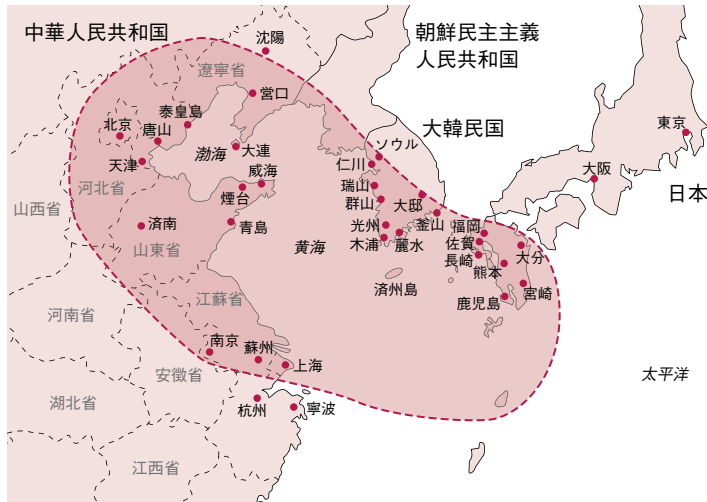
## 【環黄海経済圏の形成を目指して】

政府が進める地域間や二国間での経済連携の動きに対応し、九州では「環黄海経済圏」の形成を目指し、1990年代初めより、中国・韓国政府との会議体（交流プラットフォーム）を組織し運営してきた。

環黄海地域の重要性は、日中韓の首脳会議や閣僚会合でも取り上げられており、地域間交流の先進的な取り組み事例として紹介されているのが「環黄海経済・技術交流会議（環黄海会議）」である。

中央政府レベルでは時間のかかることも、九州発だとスピード感を持って進められるは

図4 環黄海经济圈



(注) 環黄海地域：中国（遼寧省・河北省・山東省・江蘇省・北京市・天津市・上海市）、  
韓国（京畿道・忠清南道・全羅北道・全羅南道・慶尚南道・仁川市・  
大田市・光州市・釜山市）、日本（九州）

(出所) 九州経済産業局「九州の経済概況」

九州市で同時開催する予定である。同時開催により、各会合のメッセージの発信力がより一層高まることを期待している。

### ②ベトナム計画投資省との経済交流覚書の締結

ベトナムは、ASEAN 諸国の中でも、ここ1～2年で九州との交流が着実に進展した国である。2009年2月には、九州経済国際化推進機構とベトナム政府計画投資省との間で、経済交流に関する覚書を締結し、双方の交流窓口を明確化するとともに、一層の交流を図ることとなった。

さらに、2008年9月の九州ベトナム友好協会の設立、2009年4月の在福岡ベトナム総領事館の開設、福岡県とハノイ市との友好提携、北九州市とハイフォン市との交流提携、ベトナム航空による福岡－ハノイ直行便開設等、九州とベトナムの交流は着実に拡大している。

さらに、2008年9月の九州ベトナム友好協会の設立、2009年4月の在福岡ベトナム総領事館の開設、福岡県とハノイ市との友好提携、北九州市とハイフォン市との交流提携、ベトナム航空による福岡－ハノイ直行便開設等、九州とベトナムの交流は着実に拡大している。

### (3)輸出拡大による九州経済の活性化

九州がアジア新興国（中国、インド、ベトナム等）の成長エネルギーを取り込む方策はいくつかあるが、ここでは九州からアジアへの輸出拡大を図るための具体的な方策について述べてみたい。私は、①「九州ブランド」にふさわしい戦略産業の明確化、②産業競争力を高めるためのインフラ整備、の2つが不可欠であると考えます。

ずである。環黄海会議の成果は、将来の東アジア広域経済圏構想にも活かすことができるのではないかと考えている。

### 【会議の概要】

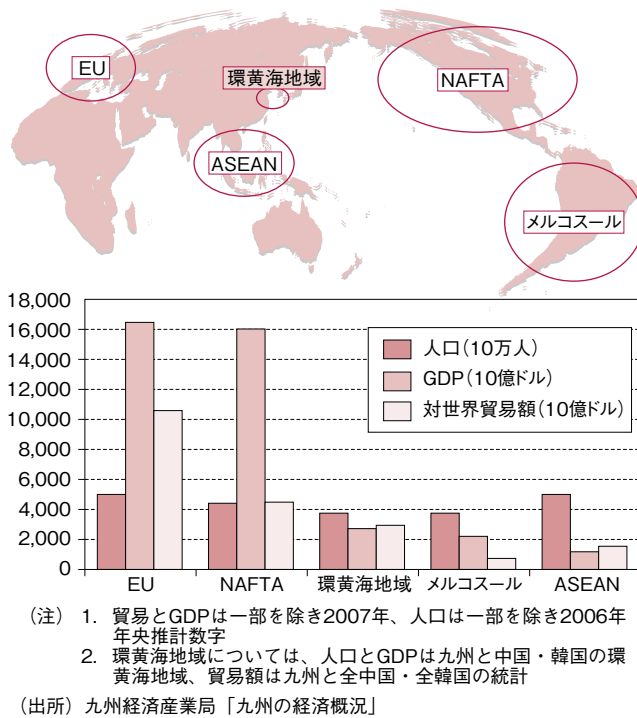
環黄海会議は、日中韓3カ国の黄海沿岸部地域の産学官の代表者によって構成されており、日本では九州が対象地域に含まれる。

2009年7月には、第9回環黄海会議が中国山東省煙台市で開催され、九州から101名を派遣し、3カ国全体の参加者は500名を超えた。私自身も会議に出席したが、産学官連携をテーマに、人材交流や共同研究、省エネ・環境分野での連携方策について、各国が積極的にアイデアを出し合い、意義深い大会であった。

### 【北九州市での3会合同時開催】

2010年10月には、「第10回環黄海会議」「第14回九州・中国産業技術協議会」「第17回九州・韓国経済交流会議」の3つの会議を北

図5 他経済圏との比較



### ① 「九州ブランド」にふさわしい戦略産業 〔農業〕

「九州ブランド」にふさわしい戦略産業として、まず農業を挙げたい。農業分野では、農商工連携や企業の農業参入も進みつつある。日本の農産物は、品質面、安全性で付加価値があり、海外市場において高い評価を受けている。九州の農業生産額は全国の2割を占めており、しばしば「フードアイランド九州」と呼ばれるが、いかにして九州の農産物を巨大なアジア市場に売り込むのか、今後の課題である。

### 〔環境〕

産業発展の過程で九州に蓄積された、公害防止・環境保全技術等を「ビジネスチャンス」として活用し、積極的に海外へ発信すること

も重要である。

東アジアの環境・エネルギー問題は、地理的に近接する九州にとって対岸の火事ではない。環境ビジネスによる「地域産業の活性化」と同時に、アジア諸国の懸案解決への「貢献」を果たすことが望まれる。

アジアへの技術支援の一環として、北九州エコタウンから中国青島市・天津市の「静脈産業圏」（中国版エコタウン）へのノウハウ提供などが進められ、協力関係も深化している。

### 〔自動車・半導体産業〕

近年、九州では、自動車や半導体関連の最新鋭工場の立地が進んだ。これは、日本で最もアジアに近いという地理的優位性を持つ九州が、アジアへの戦略的生産拠点および輸出

拠点として選択されたからにはほかならない。

いずれの産業についても、九州と中国・韓国・台湾等との間で製品間・工程間分業が進展しており、今後も現行の「分業体制」を維持・発展させ、一つの経済圏へと深化させていくことが重要であると考ええる。

### 〔その他〕

中国やインドなどアジア新興国では、経済発展とともに人々の生活水準が飛躍的に向上しているが、今後、医療分野が大きな課題の一つになるといわれている。九州では、産学連携により医療用ロボットの開発やバイオ関連製品の開発が進められており、実用化に期待している。

またアジア大交流時代を見据え、航空機産

業の育成も重要な課題であるとする。

## ②アジアに開かれたインフラネットワークの構築

「九州ブランド」の製品を輸出するためには、九州内のインフラを整備し、アジアに開かれたインフラネットワークを構築することが不可欠である。

### 〔九州新幹線〕

九州新幹線は、2004年3月に鹿児島ルート  
の南半分が開通し、地域に大きな経済効果  
をもたらした。2011年春に予定されている全  
線開通により、博多から鹿児島まで1時間  
20分で結ばれる。ビジネス面でのさらなる  
生産性向上や観光振興など、期待は大いに膨  
らむ。

### 〔自動車道（循環型高速交通ネットワーク）〕

課題であった東九州自動車道をはじめとす  
る循環型高速交通ネットワーク構築に向けた  
取り組みも、着実に進展が見られる。これま  
で地理的に分散していた産業の地域間連携  
や、新たな広域観光ルート開発も視野に入っ  
てきた。

### 〔港湾（高速海上交通）〕

北部九州の港では、アジアとの近接性を活  
かし、国内他地域では見られないユニークな  
高速海上交通が発達している。

例えば、博多－上海を約28時間で結ぶ高  
速貨物船「上海スーパーエクスプレス」が週  
2便就航し、アジアへの一日配達圏を実現し  
ている。また、博多－釜山を2時間55分で結  
ぶJR高速船「ビートル」が毎日約10便就航し、  
特に韓国からの観光客誘致に貢献している。

さらに最近では、中国富裕層が利用するク  
ルーズ船の寄港誘致を行い、大きな経済効果

をもたらしている。

## 3. 商社への期待

これまで述べた通り、「アジアとの連携」  
は当地域の持続的な成長に欠かせない視点で  
ある。当地域におけるアジアビジネスの活性  
化・円滑化に向け、今後の商社への期待とし  
て、以下3点述べたい。

1つ目は、九州企業が海外へ進出するに当  
たつての「ご意見番」としての役割である。  
商社は、企業が海外進出するに当たって不可  
欠な、現地のビジネス情報・ノウハウ・人脈  
等を豊富に有している。これらが不足しがち  
な九州企業に対し、商社が積極的にサポート  
することを強く期待する。

2つ目は、九州ブランド発掘のための「目  
利き役」である。九州の情報を海外に向けて  
発信する際、何が九州の強みであり、「九州  
ブランド」としてふさわしいか、海外ビジネ  
スのプロフェッショナルという立場から見極  
めてほしい。

3つ目は、海外において九州の良さを積極  
的にアピールする「民間外交官」の役割も担っ  
ていただければと思っている。九州は、海外  
での知名度の低さが課題であり、特に九州出  
身者や九州勤務経験者の方には、海外で折に  
触れて九州のことを気軽に話題にすることを  
お願いしたい。

## 4. 終わりに

以上、九州の成長戦略と商社への期待につ  
いて述べたが、国際取引のプロフェッショナ  
ルである商社が、九州の成長戦略の要である  
「国際化」に今後ますます貢献することを大  
いに期待したい。